

## 鐘楼堂

何世紀もの間、江戸の庶民は時刻を知るのに増上寺の大梵鐘を頼りにしていました。重さ 15 トン、高さ 3.3 メートルのこの鐘は、三門を入ってすぐのところにある木の塔に吊るされていました。この鐘は 1673 年に江戸幕府の第四代将軍徳川家綱（1641–1680）の命令で鑄造されました。増上寺の鐘の音は江戸の町中に響きわたり、東京湾を挟んで 35km ほど離れた漁村・木更津でも聞こえたと言われていました。

この鐘は長年にわたって毎日朝・昼・夕の 3 回鳴らされていましたが、現在では午前 5 時 30 分と午後 5 時の 1 日 2 回のみ鳴らされています。檀木が梵鐘をつく深い響きが特に際立つのは大みそかの除夜の鐘です。除夜の鐘では、その年に蓄積した 108 の煩悩を消し去ることを象徴して、鐘が 108 回つかれます。梵鐘は大きな青銅の龍の頭で木の塔に吊られており、この龍の頭は塔内部の西側から見ることができます。

第二次世界大戦中、多くの青銅の骨董品が溶かされてしまいましたが、増上寺の梵鐘は大きくて重すぎたため容易に運べなかったため、難を逃れました。